



JRA

THE FUKUSHIMA HIMBA STAKES

第22回 福島牝馬ステークス (GIII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 40,000,000円	16,000,000円	10,000,000円	6,000,000円	4,000,000円
付加賞 567,000円	162,000円	81,000円		

レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牝、4歳以上、除外未出走馬および未勝利馬

負担重量 55kg、2024.4.13以降 G I 競走1着馬3kg増、G II 競走1着馬2kg増、G III 競走1着馬1kg増

2024.4.12以前の G I 競走1着馬2kg増、G II 競走1着馬1kg増(ただし2歳時の成績を除く)

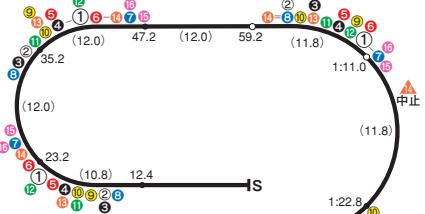
2025.4.20 福島 墓・良 芝1800m (国際) (指定)

順位	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
					(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1	① アドマイヤマツリ	牝 4	55	田辺裕信	1:46.2	6-6-4-3	34.6	452(+2)	3.81	宮田敬介(美浦)	106	
2	⑤ フェアエールング	牝 5	56	丸山元気	2	8-8-8-9	34.6	454(-2)	10.46	和田正一(美浦)	104	
3	④ フィールシングパンサー	牝 6	55	横山瑞人	クビ	9-8-8-4	34.7	456(-6)	14.38	小島茂之(美浦)	101	
4	⑥ アリスウェリテ	牝 5	56	三浦皇成	%	5-5-4-4	35.1	472(+2)	15.98	中竹和也(栗東)	102	
5	⑪ シンリョクカ	牝 5	56	木幡初也	クビ	11-13-10-10	34.5	464(-4)	9.25	竹内正洋(美浦)		
6	⑦ アマイ	牝 5	55	丸田恭介	%	2-2-2-2	35.7	460(±0)	71.80	伊藤大士(美浦)		
7	③ ジューンオレンジ	牝 5	55	荻野 極	1% 14-15-11-11	34.6	454(-10)	8.94	長谷川浩大(栗東)			
8	② ライラック	牝 6	55	石川裕紀人	% 14-14-14-13	34.4	442(-4)	7.73	相沢 郁(美浦)			
9	⑯ アスコルティアーモ	牝 5	55	菊沢一樹	ハナ	1-1-1-1	36.2	464(+8)	35.70	林 徹(美浦)		
10	⑨ セキトバースト	牝 4	55	吉田隼人	クビ	13-10-6-7	35.5	454(±0)	11.97	四位洋文(栗東)		
11	⑧ グランスマラスク	牝 6	55	古川奈穂	クビ	16-16-14-14	34.5	460(-8)	166.50	矢作芳人(栗東)		
12	⑩ ホエリート	牝 4	55	原 優介	ハナ	6-6-6-7	35.6	482(+4)	4.52	田島俊明(美浦)		
13	⑬ カジュノリ	牝 4	55	武藤 雅	%	9-10-11-11	35.1	474(-4)	37.50	尾形和幸(美浦)		
14	⑮ ベイシャフラー	牝 5	55	永島まなみ	4	2-2-2-4	37.0	466(±0)	157.20	高橋康之(栗東)		
15	⑩ ミスカッレーラ	牝 4	55	御神本訓史	大差	11-10-13-15	37.9	490(-10)	250.10	川島正一(船橋)		
中止	⑭ ラズベリームース	牝 6	55	小沢大仁	4-4-16		512(±0)	33.60	10	林 徹(美浦)		

単勝1380円(1%) 優勝180円(2%) ⑥310円(6%) ④340円(7%) 枠連1-③780円(2%)

馬連①-⑥1,710円(5%) ワイド①-⑥770円(7%) ①-④870円(9%) ④-⑥1,620円(23%)

馬単①-⑥2,640円(5%) 3連複①-④-⑤-⑦,180円(26%) 3連単①-⑤-⑥-④25,430円(54%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.2 - 47.2 - 59.2 47.0 - 35.2

アラカルト

- 田辺裕信騎手は福島牝馬S初勝利。この勝利により、現在福島競馬場で実施されている4つの重賞競走を完全制覇(本競走が創設された04年以降では初)。JRA重賞通算46勝目
- 宮田敬介調教師は福島牝馬S初勝利。JRA重賞通算6勝目
- キタサンブラック産駒はJRA重賞通算20勝目
- ラズベリームースは競走中に疾病(右第3手根骨複骨折)を発症したため3コーナーで競走中止
- 非当選馬 1頭(カヨウネンカ)
- 非抽選馬 1頭(ピンクジン)
- アドマイヤマツリはヴィクトリアマイル(G I)に優先出走できる

アドマイヤマツリ Admire Matsuri

牝 黒鹿毛 2021.2.6生
北海道日高町 スマイルファーム生産
馬主・近藤旬子氏 美浦・宮田敬介厩舎
馬名意味・冠名+祭り

シーズライクリオUSA系 F9-f	
キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001
	サンデーサイレンスUSA ウインドインハイヘアIRE
アドマイヤナイト 栗毛 2012	シュガーハート 鹿毛 2005
	サクラバクシンオー オトメゴコロ
アドマイヤムーン 鹿毛 2003	アドマイヤムーン 鹿毛 2003
	エンドスウェープUSA マイケイティーズ
アドマイヤカグラ 栗毛 2007	アドマイヤカグラ 栗毛 2007
	スペシャルヴィーク シーズライクリオUSA

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4×M4
Lyphard S5×S5

INTERVIEW

中村広樹代表(スマイルファーム)

「マツリ！ よくやった!!」のひと言です

繁忙期ですので妻と一緒にテレビで観戦しました。「マツリ！ よくやった!!」のひと言です。無事に競走馬になれたこと自体が生産者として大きな喜びですが、さらに重賞にチャレンジできたのは近藤旬子オーナーのお陰です。母アドマイヤナイトは繊細な性格で、駆けにも厳しく、マツリはついていくのに必死だった記憶が強いです。母に鍛えあがれられた子かもしれません。

父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 詳細はP.24参照

母アドマイヤナイト

北海道新函館町 新冠橋本牧場生産 中央30戦4勝(千葉日報杯、別府特別)
アドマイヤマツリ(20 牝父ロードカナロア)中央1戦0勝

アドマイヤマツリ 本馬(21 牝父キタサンブラック)中央9戦5勝(福島牝馬S GIII、スピカS、オリエンタル賞)獲得総賞金100,521,000円

アドマイヤフク(23 牝父アドマイヤマーズ)

※22、24(不受胎)、25(流産)

祖母アドマイヤカグラ

北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産 中央0勝。23年用途変更

アドマイヤナイト(12 前出)

キングラディウス(13 牡父キングカメハメハ)中央3勝、地方9勝

ストームフレイバー(14 牡父クロフネUSA)地方6勝

ローレルアイリス(17 牝父アドマイヤムーン)中央3勝(ファイナルS、会津特別)、地方3勝

アンジュアムール(20 牝父アドマイヤムーン)中央0勝、地方2勝

曾祖母シーズライクリオUSA

北米2勝(ラッキーラヴェンダーガールH3着)、06年輸入、15年用途変更

シーサイドリトリート Seaside Retreat(03 雄父King Cugat)北米7勝(ニ

ジンスキーソ・加GII、ディスプレイS・加L、チャーレイバーレイS・加L、ヴァージニアダービー・米GII2着、レーンズエンドS・米GII2着、スカイクラシックS・加GII2着、オープニングヴァーグZH・米L2着、ノーザンダンサーTFR・加G13着、キングエドワードH・加GII3着)

アドマイヤカグラ(07 前出)

サダメグランジュテ(08 牝父キングカメハメハ)中央5勝(初日の出S、鶴見特別)、地方0勝、ナイトキャッスル(萩S・L2着)、ロコボルティ(平城京SOP、伊勢S)、アルセスト(岩船特別)の母

リオグランデ(10 牝父ディープインパクト)中央1勝

母の父アドマイヤムーン

北海道早来産 中央、首、香10勝(ジャパンC GII、宝塚記念GII、ドバイデュエティフリーGII、京都記念GII、札幌記念GII、弥生賞GII、共同通信杯GIII)

[BMS代表産駒]ノースブリッジ(札幌記念GII、父モーリス)、アドマイヤマツリ(本馬)、ニューモニュメント(ジュライ S・L、父ヘニーヒューズUSA)



現在、福島競馬場で行われている4つの重賞のなかで最も歴史が浅い福島牝Sが創設された2004年以降4つの重賞を完全制圧した騎手はこれまでいなかった。しかし今年のレースには他の3つの重賞(七夕賞、ラジオNIKKEI賞、福島記念)をすでに勝っている田辺裕信騎手が、1番人気の支持を集めたアドマイヤマツリとのコンビで参戦し、快挙の成否が焦点の一ひとつに。福島直出身のご当地ジョッキーと重賞初挑戦の新星は背負った期待に応え、見事に勝利を飾った。逃げ候補が散在し、激化も予想された先行争いだが、外枠から一枚上のダッシュで飛び出したアスコルティア

勝利を挙げるまで4戦を要した本馬だが、未勝利脱出以降は4戦3勝2着1回とほぼ完璧な成績で3勝クラスを卒業。昇級初戦の重賞でも満点の結果を出し、前走からコンビを組んだ田辺騎手に前人未到の“ゴンブリー”をもたらした。この勝利でヴィクトリーマイルの優先出走権も獲得。デビューカー一貫して中距離でキャラリアを重ねてきただけに、未経験のマイルに対応できるかがポイントとなるが、重賞の壁も難なく突破したキタサンブラックの“勢い”は侮れない。

モは同型馬を従えてスンナリと先手を奪い、平均ペースの逃げを打つ。最終枠を引いたアドマイヤマツリは中国のインで流れに乗り、対抗候補と目された中山牝Sの2着馬ホーエリートがその外を追走。牡馬混合のGIIで揉まれてきた経験値も評価され、3番人気の支持を集めたライラックは馬群の後方で末脚勝負に構えた。

内々を進みつつ、3コーナーから徐々に前との差を詰めにかかった田辺騎手は、3番手までポジションを上げて4コーナーをターン。迎えた直線では馬場の真ん中に持ち出して加速を促す。十分な余力を残していたアドマイヤマツリも鋭く反応。2番手追走から先に抜け出しをはかったアマイを楽々とかわし、中団から追い込んだフェアエールング以下に2馬身差をつけて完勝のゴールに飛び込んだ。

人馬ともに期待に応える見事な勝利